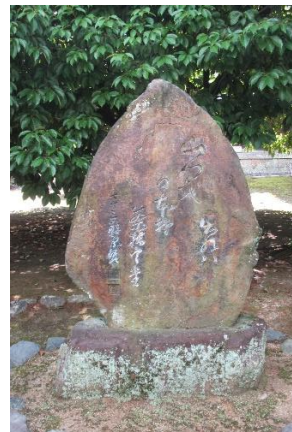


山口市文学碑巡り No19 番外編②（宇治黄檗山萬福寺一田上菊舎句碑）

宇治萬福寺の総門をくぐり右手に放生池を見ながら三門に向かって歩くと、三門の左手に句碑が建っています。萩の清光寺尼僧田上菊舎の句で“山門越 出れハ 日本楚 茶摘宇堂”（山門を出れば日本ぞ茶摘みうた）と刻まれています。菊舎は宝暦3年（1753年）に現在の豊北町で、医を業とする長府藩士田上由永の家に生まれ、16歳で嫁ぎ24歳で夫の死去に依り実家田上家に復籍。26歳で菊車の俳号を得て29歳の時萩の清光寺で得度の後全国行脚に出ます。31歳の時に菊車から菊舎に改名し文政9年（1826年）に没しました。この句は38歳の寛政2年（1790年）3月から5月にかけて、吉野山を中心とした宇治から奈良の紀行の俳諧記録に記されています。萬福寺から西国観音霊場十番札所の三室戸寺に向かい“猶ゆかし 三室の月の おぼろ影”の句も詠んでいました。今回の写真も同期の北川雅博君から送って貰ったものです。

田上菊舎の句碑と脇に立つ説明板



写真提供は76期北川雅博君（宇治在住）

（76期 厚東一生）